

目指す学校像	わからなかったことが わかるようになる学校	わかったことが さらにわかるようになる学校
--------	-----------------------	-----------------------

重点目標	1 確かな学力の育成のための、個別最適な学びの実現と、学ぶ意義を実感できる教育課程の創出 2 安心で安全な教育環境の整備と、豊かな心とたくましい体の育成 3 学校運営協議会を発足し、学校、家庭、地域における情報共有と行動連携 4 学校生活の真の楽しさを味わわせることができる授業力と指導力の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の結果から、学力、生活面の意識とも良好な結果である。 ○学校評価児童アンケートにおいて、「授業は分かりやすいですか」の質問に対する肯定的な回答が96%である。 ○学校外で、学校より発展した学習に取り組んでいるという回答が40%である。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、6割以上の児童は、80%以上の正答率であるが、無回答率にやや課題が見られ、理解に時間がかかる児童もいる。 ○「国語の勉強は好きですか」「学校での勉強は役に立ちますか」などの意識から、学習することの意義を実感させたい。	・確かな学力の育成のための、個別最適な学びの実現	①授業の中に自分で考える時間を確保し、教員による個別の支援、自力解決、協働解決の時間とする。 ②スタディサプリやデジタル教科書等のICTを研究し、授業の中に積極的に位置づける。 ③少人数指導を実施し、学び方を自己決定させ、より主体的で個別最適化された学習を提供する。	①授業の中に、自力解決の時間を10分間程度確保することができたか。 ②スタディサプリやデジタル教科書等、新規に導入された教材を授業や家庭学習で活用できたか。 ③少人数指導を実施し、児童に学び方を自己決定させることができたか。	・指導方法の工夫改善により、個別最適な学びの実現に努めた。 ①自力解決の時間を確保し、支援を行うことで、主体的に学習する意欲が高まった。(児童・教職員9割達成) ②デジタル教材の授業での活用は進んだ(児童・教職員9割、保護者8割達成)が、家庭での活用(児童・教職員5割、保護者3割達成)。 ③少人数指導を実施したが、課題がある。研修では、児童が学び方を選択できるよう追求した。(教職員4割達成)	B	◎指導方法・体制の工夫改善により、個別最適な学びの実現に迫る。 ・ICTを活用した自立した学びを支えることを継続するとともに、デジタル教材を介して、豊かに伝え合うことで、自分の考えを広げ深めるようにする。 ・担任交換授業、高学年の教科担任制などの体制の工夫をしているが、今後も学校内外の連携と分担により、学校がチームで指導・支援していけるようにする。	・学校でのタブレットの活用について、多くの情報を扱い、学習の理解が進んでいると考える。家庭でもタブレット活用を進めたり、情報活用の苦手な児童へのフォローをしたりすることが必要である。家庭での使い方について、さらなる啓発が必要である。 ・児童の学習に協力することのできる地域の人材を生かすなどの体験学習により、多様性の理解につながった。今後も教科書に載っていないような体験学習は重要と考える。
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査の結果から「学校に行くのが楽しい」という意識が良好である。 ○いじめの認知から認知、対応方針の検討、対応の見守り見届けを組織的に行うようになった。 ○全職員で毎月安全点検を実施し、必要な対応を実施月内で行うことができた。 ○首から上のけがについて報告体制を整えた。 <課題> ○昨年度のいじめ認知件数は14件であった。積極的な認知の姿勢を継続する必要がある。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、いじめは良くないことである意識にやや課題がある。 ○あいさつの意識の高まりについて、児童、保護者、地域、教職員の評価に乖離が見られ、連携した活動を展開する必要がある。	・安全で安心な教育環境の整備 ・豊かな心とたくましい体の育成	①毎月の安全点検を確実に実施し、不具合箇所を早期発見、早期対応する。 ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備をする。 ③90周年の節目を生かし、充実した環境整備をする。 ④学びを継続できるように、週1日はタブレットの持ち帰りを実施する。	①安全点検における不具合箇所が次月に持ち越される事はなかったか。 ②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室の環境整備がなされたか。 ③90周年の節目を生かし、普段できない環境整備ができたか。 ④週1日ペースでタブレットを持ち帰り、家庭での学習に活用できたか。	・安全で安心な教育環境の整備について、概ね実現させた。 ①安全点検に係る修繕を適宜実施した。(教職員9割達成) ②教室掲示を見直し、精選した。(教職員9割達成) ③中庭の整備を行った。(教職員9割達成、保護者8割達成) ④タブレットの持ち帰りを実施したが、課題がある。(保護者・教職員3割達成)	B	◎誰もが安心・安全に学校に通える環境づくりについて、運営委員会でも検討し、改善につなげる。 ・ユニバーサルデザインの視点での教室整備をさらに検討し、改善につなげる。 ・1人1台端末を文房具として活用し、多様な学びが展開されるよう、学習用具の持ち帰りを含めて検討する。	・環境面、人間関係ともに、学校の教育環境として居心地がよく、概ねよいと考える。いじめのような、見えにくい課題についても、今後も積極的に認知し、解消を目指してほしい。いじめをなくすよう、児童の中からいじめを抑止したり告発したりすることができるようになっていく必要もあると考える。 ・地域で大人が清掃する姿を見た児童が、自発的に手伝うと言ってくれることがあった。今後も、自主的・実践的に活動できるような場をつくり、児童の活動が社会の役に立っていると感じさせることが大切と考える。
3	<現状> ○学校運営協議会準備委員会において熟議の結果、「コミュニケーション力」と「自分で考え行動できる力」を育てていくということになった。 <課題> ○目指す児童像について、情報発信を行い「明日が楽しみ仲本小」の深化、「あいさつ運動」の進化に取り組む。	・目指す児童像を地域全体で共有 ・保護者のニーズに寄り添った学校運営	①懇談会や授業参観など保護者や地域と連携するための機会を増やす。 ②学校・家庭・地域での合同あいさつ運動を実施する。 ③開催初年度となる学校運営協議会で経営方針、課題を共有する。	①学期に1回以上、学校と保護者が情報を共有する機会ができたか。 ②合同あいさつ運動を実施できたか。 ③経営方針、課題について熟議することができたか。	・コミュニケーション力、自分で考えて行動できる力の育成を目指し、協働した。 ①保護者や地域に情報共有を行った。(保護者8割、地域6割、教職員9割達成) ②年間3回の合同あいさつ運動を実施。 ③学校運営協議会にて熟議を行い、特色ある教育活動を行った。(地域8割達成)	B	◎コミュニケーション・スクールとしての活動を継続・発展させる。 ・保護者や地域住民等がさらに「当事者」として学校運営に参画できるように、児童が主体的に取り組んでいる姿を共有し、「つながり」の機会をつくる。	・コミュニティ・スクールとしてあいさつを推進する缶バッジをつくり、少しずつ効果を感じている。さらに家庭からあいさつを推進していきたい。また、今後も学校、家庭、地域の連携及び協働の取組をさらに広げ、「つながり」をつくってほしい。 ・コロナ禍の中で活動を工夫し、保護者や地域の関係者が学校に足を運ぶ機会は増えた。さらに、情報発信を進めることで理解が深まる。
4	<現状> ○学校課題研修、エバンジェリストによる推進により、タブレット端末の活用等、ICT環境を基盤とした授業づくりが進んだ。 <課題> ○ICTの活用など、常に学び続け、「わかる授業」「楽しい授業」を実践できる力を付けたい。 ○児童の多様な個性に対応する指導力をつけたい。 ○教育者としての強い使命感と熱い情熱をもち、児童や保護者の願いに寄り添うことができる教職員を目指したい。	・真の楽しさを味わわせることができる教職員の育成	①学校課題研修を充実させ、授業研究を柱とした研究を進める。 ②授業について自分なりのこだわりをもち、自分のよさを生かした授業を実践する。 ③学期に1回以上、校長による教室訪問を実施し、授業を参観するとともに授業後の面談で、授業や児童の様子について協議する。 ④特別支援学級、通級指導教室といった特別支援教育の機能が集中している特徴を生かし、児童をより深く理解できる力を育成する。	①2学期に指導者を招聘した授業研究が実施できたか。 ②教員が自分の授業のよさについて気づくことができたか。 ③教室訪問で、視点に沿った授業を実施することができたか。 ④特別支援教育に係る研修会を夏季休業中に実施することができたか。	・研修等を工夫し、「目指す教職員像」に迫った。 ①授業研究を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行った。(教職員9割達成) ②自身のこだわりをもち、授業実践をした。(教職員9割達成) ③校長による教室訪問を通して、視点に沿った授業及び協議を実施した。(教職員9割達成) ④特別支援教育に係る研修会を通して、より深い児童理解につなげた。(教職員10割達成)	A	◎一人ひとりが力をさらに発揮できるように、教職員の研修等を工夫する。 ・研修の成果をもとに、学習指導、生徒指導の充実、保護者との連携強化を図り、これまで以上に児童が自ら学習を調整していく新たな学びに対応できるようにする。 ・変化の速い世の中で、常に学び続けるためにも、業務改善を量的な面だけでなく、協働性を高めるなど、質的に行っていく。具体的には、教員が相互に授業参観を行うペア、機会などの仕組みをつくる。	・コミュニケーション力、自分で考えて行動できる力を育成し、自信をもって生き抜く力をつけていく必要があり、小・中の接続の視点も大事である。 ・今後も児童にとってどうなのか、児童を主語として考え、目指す学校像に迫っていきたい。

学校運営協議会による評価
 実施日令和5年2月13日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等